

「グローバル安全学トップリーダー養成プログラム 活動報告書」

「山元町における津波避難訓練調査」

報告者 藤田 遼（理学研究科M1）

1. カテゴリー

学生自主活動

2. 活動日時、場所

2013年8月31日(土) 9:00-12:00

場所 山元町

3. 企画者:災害科学国際研究科

安部 祥(教員) Suppasri Anawat(教員) ※「カケアガレ日本」プロジェクトの一貫

4. 参加者:藤田遼(理学研究科M1)、磯崎匡(文学研究科M2)、鄭翌哲(工学研究科M1)、久利美和(専任教員)、その他(国際文化研究科学生、災害科学国際研究科教員、スタッフおよび学生)

5. 活動目的

平成23年3月11日、マグニチュード9.0という未曾有の地震により、山元町では600名以上の尊い命が失われた。地震後に発生した大津波は町の約半分の地域を飲み込み、約2,500世帯の家屋が水没したと報告されている。山元町は津波にそなえて避難できる高台や高い建物が限られており、そうした避難場所へたどり着くまでに数キロの距離を自動車で移動しなければならない地域もある。これらのことから、今回の津波避難訓練では、避難場所となる学校に駐車場を設置した上で実際に自動車を使った訓練を一斉に行い、どのくらいの参加台数があるか、どのあたりで渋滞が発生するのかなどを検証することを狙った。なお、避難ルート等の設定や地区別の事前調整は特に行なわれていない。

6. 活動概要

事前に渋滞等が予測される複数の交差点においてそれぞれ各2名が配置され、交通量調査および写真記録を行なった。具体的に、交通量調査とは、海側から内陸方向へ避難する自動車について交差点に進入(もしくは横断)する度に、台数をカウントし、5分ごとの通過交通量を記録する作業のこと、写真記録とは、同様に海側から内陸方向へ避難する自動車について、交差点に進入(もしくは横断)する度に写真を撮影

する作業のことである。この交通量調査により、各交差点においてどのポイントおよびどの時間帯が特に渋滞が発生するのかを比較検証し、また写真記録により、各ポイントにおいてカメラに記録された正確な時刻とそれらに対応する渋滞の長さや車の台数を詳細に把握することが可能となった。また、同時に車両による追尾調査や定点ビデオカメラによる記録も教員、スタッフにより行なわれていた。

7. 特記事項・添付資料など

今回の訓練における参加者車両数は、工事関係車両も含めると約600台もの車が参加していたと報告されている。これだけ大規模な避難訓練の現場を現場で見て、調査できたことは研究のための災害調査という意味ではもちろん、実際に今後も自分が大災害に襲われた際などに、避難の仕方を考える上でも非常に参考になった。今後も、このような現場での災害訓練に関心を持ち続け、安心、安全な社会構築へ向けた自分なりの意見や考え方を深めていきたいと思った。